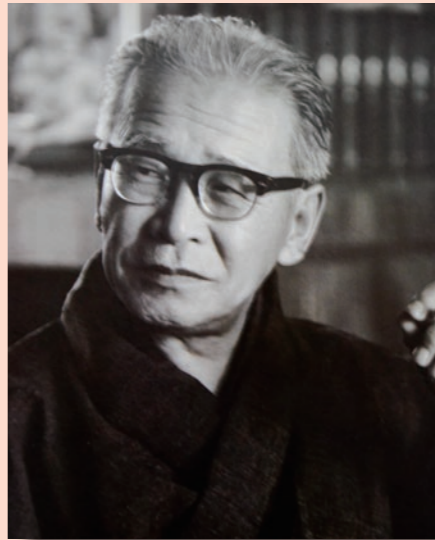


俳句

横山白虹

長門市・下関市 (1899~1983)



【著作】

句集『海堡』（昭和13・沙羅書店）
句集『旅程』（昭和55・現代俳句協会）
『横山白虹全句集』（昭和60・沖積舎）ほか

【関連情報】

毎年11月、下関東行庵又は北九州市小倉北区妙見宮にて白虹忌句会開催（「白鳴鐘」主催）

【閲覧情報】

北九州市立文学館

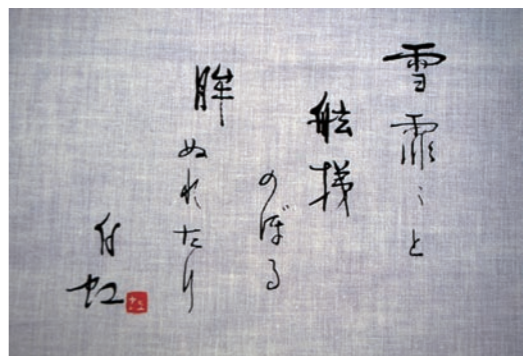
横山健夫（俳号：白虹）は、明治三十二年（一八九九）横山達三（評論家・横山健堂）の長子として東京で生まれた。祖父は松下村塾に学び大津郡郡長を務めた横山幾太、母方の祖父は小野田セメント創始者の笠井順八である。伸びやかな少年時代を経て、笠井家の期待でドイツ留学を準備していたところ、第一次世界大戦が始まり、東京府立一中より一高三部（医科）へと進んだ。生来、家庭環境もあって「高詩会」創立等「文学」の道を期していたが、一高校長の「五十までは医業を積み、以後望みの道へ」という言葉に従ったという。

九大医学部に進み外科医として北九州に横山病院開設。名医と称えられたが、終戦後「文化」を語れる人物を政治の場へという声に押され小倉市議会議員となり、市議会議長、北九州五市合併委員長などを務めた。齢七十を過ぎて全国的な俳人の集団「現代俳句協会」の会長の任を担い、十一年間務めた。「俳句」との出会いは大正時代で、俳号の「白虹」は一高詩会の師北原白秋、川路柳虹の一字ずつを得たものである。昭和二年（一九二七）「九大俳句会」を指導していた『天の川』主宰吉岡禪寺洞の委嘱で同誌の編集長を務め、昭和初期の「新興俳句運動・九州の旗手」と呼ばれた。昭和十二年（一九三七）芸術は個性に立脚する（「新情緒主義」）を唱え俳句誌『白鳴鐘』を創刊主宰した。戦時休刊、昭和二十三年（一九四八）復刊、『白鳴鐘』と称した。松本清張、森村誠一はじめ、文壇、俳壇、演劇、政界の知友も多彩で、単なる「地方文化への貢献」ということでは、そのスケールの大きさは捉え難い。

昭和五十八年（一九八三）十一月、父健堂の顕彰碑が多くの人々の尽力で下関の東行庵に建立されたのを聞き届けて五日後、八十四歳で逝った。

若き日、師北原白秋に贈られた「死ぬ時に後悔の無いよう」の言葉が見事に重なる人生であったと言える。

（文）寺井 谷子



和手拭いに染め抜かれた代表句「雪霏々と舷梯のぼる眸ぬれたり」

※山口誓子はこの句を傑作の一句とし、「この作品には白虹君の志向してゐる詩性が瑞々しく、しかも的確に描かれている」と評価した。



青海島（長門市）の句碑「黒潮へ没る日の上を鷗が翔ぐる」



東行庵（下関市）の句碑「梅寂し人を笑はせをるときも」

海苔干すや海堡に浪のおとろへず
よろけやみあの世の螢手にともす
ラガー等のそのからうたのみじかけれ
雪霏々と舷梯のぼる眸ぬれたり
和布列る神の五百段ぬれてくらし
桐の実が鳴れり覆面の競走馬
枯草の一すぢ指にまきてはとく
滝浴びし貌人間の眼をひらくく
夕桜折らんと白きのと見する
蝶消えて白き手が砂かきならす
石路の花心の崖に日々ひらく
梅寂し人を笑はせをるときも
春夜の街見んと玻璃拭く蝶の形に
原爆の地に直立のアマリリス
アディオス！この暁闇の花時計

（横山白虹全句集）沖積舎刊・昭和60年

横山白虹 年譜

（提供：寺井谷子）

明治32（一八九九）年 11月8日、東京市本郷区東片町32番地にて出生。横山達三（健堂）の長男。母はキク。本籍は山口県大津郡深川町。淀橋小学校に入学。
明治39（一九〇六）年 七歳 東京府立一中に入学。
明治45（一九二二）年 一三歳 山崎泰雄、橋爪健、川端康成などと一高詩会を設立。川路柳虹、北原白秋、山宮允の指導を受ける。
大正6（一九一七）年 一八歳
大正7（一九一八）年 一九歳
大正9（一九二〇）年 二二歳

大正11（一九二二）年	二三歳
大正13（一九二四）年	二五歳
大正14（一九二五）年	二六歳
昭和2（一九二七）年	二八歳
昭和4（一九二九）年	三〇歳
昭和5（一九三〇）年	三一歳
昭和9（一九三四）年	三五歳
昭和10（一九三五）年	三六歳
昭和12（一九三七年）	三八歳
昭和13（一九三八年）	三九歳
昭和14（一九三九年）	四〇歳
昭和22（一九四七年）	四八歳
昭和23（一九四八年）	四九歳
昭和30（一九五五年）	五六歳
昭和32（一九五七年）	五八歳
昭和34（一九五九年）	六〇歳
昭和35（一九六〇）年	六一歳
昭和36（一九六一）年	六二歳
昭和38（一九六三年）	六四歳
昭和40（一九六五年）	六六歳
昭和41（一九六六年）	六七歳
昭和42（一九六七年）	六八歳
昭和44（一九六九年）	七〇歳
昭和48（一九七三年）	七四歳
昭和55（一九八〇）年	八一歳
昭和58（一九八三年）	八四歳
昭和59（一九八四年）	《没後》

夏、第一外科の講師石山葉柳子に句会入会を奨められる。冬、青木月斗来福の句会に松下鷺巣と出席。特選に入り急遽俳号を「白虹」と名乗る。後年白秋、柳虹の承認を受ける。
4月、九州大学医学部卒業。
『天の川』6月号より投句を始める。
1月、吉岡禪寺洞の委嘱により『天の川』編集長となる。
『天の川』7月号を以て、学位論文研究のため、編集長を辞任。
1月、松井美都代と結婚。
11月、小倉市小姓町4丁目（現・北九州市）に横山外科病院開設。
12月、妻美都代死去。
1月、『白鳴鐘』を創刊。
6月、第一句集『海堡』刊行。10月、中屋房子と結婚。用紙統制令のため、6・7月合併号の後『白鳴鐘』休刊。
7月、『太陽系』創刊とともに審査員として参加。
6月、『白鳴鐘』復刊。SKラジオ俳壇の選評を始める。
1月、小倉前進座後援会長を受ける。4月、小倉市会議員に当選。10月、市教育委員長に就任。
10月、小倉球場建設委員長。
4月、小倉市会議員に再選される。議長に推され次いで九州議長会副会長に就任。
7月、房子同伴にて親善使節として北米タコマ市訪問。
2月、九州議長会実行委員会を沖繩に召集。5月、議長職を退き、五市合併特別委員長となる。
11月、北九州文化連盟が創立され、会長に就任。同月、第一句碑が山口県青海島に建立された。
2月、10年にわたる議員生活と訣別。12月、森村誠一を同伴して松本清張に会う。
4月、第四句碑小倉妙見神社に建立除幕。
2月、北九州市政功労者として表彰を受ける。
6月、山口県附野薬師境内に第五句碑建立。
3月、現代俳句協会会長に就任。以後、昭和58年までに六選される。
『俳句』1月号より「一本の鞭」の連載を始める。
1月、角川『俳句』に、「統、一本の鞭」連載、七月号まで続いた。11月13日、下関市東行庵に横山健堂顕彰碑建立。同東行庵に第十句碑建立。11月18日午前10時20分、胃癌のため逝去。11月26日、小倉明善社において北九州文化連盟葬。法名、横山白虹居士。当日朝、虹がかかった。
5月20日、山口市善生寺に納骨。11月11日、下関市東行庵に白虹・房子夫婦句碑建立。